

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2014年12月）

目 次

内 政

- ◆政党支持率調査結果 2
- ◆政治家の信頼度 2

外 政

- ◆V4・スイス首脳会合 2
- ◆V4・オーストリア・スロベニア首脳会合 3
- ◆スロバキア・中国首脳会談 3
- ◆V4・ウクライナ外相会合 3

経 済

- ◆新規ガスパイプライン・プロジェクト 4
- ◆スロバキア自動車産業への経済制裁の影響 4
- ◆投資誘致に関するスロバキア・ハンガリー協力 4
- ◆スロバキア中央銀行中期予測（第4四半期） 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（12月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆政党支持率調査結果（12月9、17日）

世論調査機関 Polis 及び Focus が12月9、17日にそれぞれ政党支持率調査の結果を公表した。Focus の調査では、与党 Smer の予想獲得議席数は150議席中63となっており、多数派政権の成立には連立パートナーが必要となる。

政党	Polis	Focus
Smer（方向）	38.3%	34.2%
Siet（ネットワーク）	11.9%	11.4%
KDH（キリスト教民主運動）	8.2%	10.8%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	8.4%	8.3%
Most-Hid（架け橋）	7.8%	7.4%
SMK（ハンガリー系コミュニティ党）	5.1%	5.2%
SNS（スロバキア国民党）	5.2%	5.1%

◆政治家の信頼度（12月17日）

世論調査機関 Focus が実施した政治家の信頼度に関する調査によると、スロバキアで最も信頼度の高い政治家はキスカ大統領（70.9%）であり、第2位はブガールMost-Hid党首（40%）、第3位はフィツォ首相（38.8%）という結果となった。なお、従来の調査では、回答者が信頼のできる政治家を1名のみ挙げる方法を採用していたが、今次調査では、用意した主要政治家リストに含まれるすべての政治家の信頼度に関して回答を得る方法を採用した。

外 政

◆V4・スイス首脳会合（12月9日）

ブラチスラバにおいてV4首相及びブルカルテール・スイス大統領による首脳会合が開催され、エネルギー安全保障、ウクライナ情勢、経済関係の強化等について協議が行われた。V4及びスイスは、エネルギー安全保障を短期的、長期的な優先課題の1つとして認識している点で合意した。また、ウクライナとその他の東方パートナーシップ諸国を巡る現状に関して意見を交わし、各国はミンスク合意の履行に基づき、ウクライナ危機の解決に向けた政治的プロセスを支持することを再確認した。

貿易・投資分野においても、相互協力を経済的競争力向上のための重要な要素と見なし、各国ビジネス界の協働と交流の推進がV4諸国での投資の促進にもつながっていくとの考えを示した。更に、科学、研究、イノベーションにおける協力の拡大、各国の研究機関による活動の促進への関心を確認した。

◆V4・オーストリア・スロベニア首脳会合（12月11、12日）

プラハで開催された会合に出席したキスカ大統領は、ホスト国のゼマン・チェコ大統領が、会合にオーストリア及びスロベニアの大統領も招待したことを高く評価した。首脳会合のテーマは、交通インフラ、エネルギーインフラ、エネルギー安全保障等であった。キスカ大統領は、交通インフラについては、地域全体で協調して高速道路網の構築を推進していく必要があると述べた。また、エネルギー関連では、ポーランド及びハンガリーとのガス供給網の完成に対するスロバキアの高い関心を訴えると共に、各国が供給網の構築だけでなく、供給元の多様化にも努めていく必要があるとの認識を示した。

◆スロバキア・中国首脳会談（12月16日）

フィツォ首相は、スロベニアで開催された第3回中欧・中国首脳会合への出席に際し、李克強首相と会談を行った。会談終了後、フィツォ首相はスロバキアと中国が様々なプロジェクトでの協力が可能であることを強調した。また、同首相は、来年の訪中の招待を受けたことを明らかにした。フィツォ首相及び李首相は、中国の有力銀行のスロバキア支店開設の必要性についても議論した。フィツォ首相によると、支店開設は中国の投資家のスロバキアへの信頼性向上をもたらす。また、フィツォ首相は、スロバキア中南部イペリ川での水力発電所建設プロジェクトに関する協議を行ったことにも言及した。同首相は、来年の中国訪問の際にも同プロジェクトを議題として採り上げるとの考えを示している。

◆V4・ウクライナ外相会合（12月16日）

ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相はウクライナにおいて開催されたV4及びウクライナ外相会合に出席した。同外相は、V4が、今次会合で合意した具体的な分野における改革支援を実施していくことを訴えると共に、スロバキアがエネルギー及び安全保障部門改革、チェコが市民社会、メディア及び教育の構築、ポーランドが非中央集権化及び行政改革、そして、ハンガリーが中小企業支援の分野で支援を行うことを明らかにした。

V4議長国であるスロバキアのイニシアチブによって実現した今次のV4外相によるウクライナ訪問の目的は、改革への具体的支援の提案に加えて、ウクライナ東部情勢の政治的解決の模索及びウクライナのEU統合に向けた支援の確認であった。V4及びウクライナの外相は、ウクライナ新政権の改革路線の支持、ウクライナの領土的一体性への支持及びウクライナの近代化に向けた改革の重要性を強調する共同声明を採択した。

経 済

◆新規ガスパイプライン・プロジェクト（12月1日付経済新聞）

ガス輸送事業を担うEustream社は、スロバキア、ウクライナ及びルーマニアに現存するパイプラインを、新たなパイプライン建設によって結びつけ、西欧からバルカン地域へのガス供給の確保を可能にするイーストリング・プロジェクトを紹介した。同社のマレチェク社長は、「経済的にも戦略的にも、この地域にとって最良のものである」と述べた。問題は、ルーマニア及びバルカン地域のガス輸送事業者が新規パイプライン使用への関心を有するかどうかである。マレチェク社長は、「合意に到れば、3年間でパイプラインを設置することが可能である」と訴えた。

◆スロバキア自動車産業への経済制裁の影響（12月9日付プラウダ紙）

EU・ロシアの相互制裁は、当初、スロバキアで操業する自動車大手3社に深刻な影響をもたらすと予想されていたが、実際には、ロシアに代わる西側での代替市場を確保し、起亜スロバキアは西欧及び南欧で販売台数を伸ばし、フォルクスワーゲンは北欧における電気自動車販売で成功を収め、プジョーシトロエン（PSA）も欧州顧客志向が功を奏した。

起亜のジリナ工場の幹部は、英国及びドイツ市場での安定した販売から昨年の生産台数を上回ると考えている。また、PSAのトゥルナヴァ工場の労組幹部は、「昨年と比較して7%増産され、約25万2000台を生産している。来年は、経営陣との間で昇給に関する協議を始める予定である」と述べた。

◆投資誘致に関するスロバキア・ハンガリー協力（12月16日）

スロバキア投資・貿易開発庁（SARIO）及びハンガリー投資促進庁（HIPA）は、外国投資誘致に際して競争ではなくチームを組むことによって、スロバキア・ハンガリー国境周辺地域に新たな雇用がもたらされるとの考えを示した。SARIOのシモンチチ長官によると、相互協力の協定には投資の共同誘致の可能性も含まれている。双方はすでに103の様々なプロジェクトについて協議中である。また、HIPAのエシック長官は、2015年には国境の両側で3200名分の雇用が創出されると考えている。

◆スロバキア中央銀行中期予測（第4四半期）

1. GDP

2014年の経済成長は2.3%と予測されており、2015年には2.6%に、2016年には3.3%と更に加速すると見られる。消費は、来年の初頭から、最低賃金の380ユーロへの増額等の労働市場における法制度の変更の

影響を受けると見られる。公共部門の最終消費は2014年前半に急速に増加した後、鈍化に転じると見られる。投資需要は第3四半期における経済成長を強く後押ししたが、短期的には、景況感に関する先行指標に見られるように不確実性が高まっていることから、投資活動の一時的な鈍化が予想される。

2. 労働市場及び賃金

第3四半期においても内需が新規雇用を創出した。新規雇用は主に中小企業及び行政機関で増加したと考えられる。雇用率の上昇に伴い、第3四半期の失業率は13.1%に下がった。失業率の低下は継続し、2016年の終わりには11.9%に下がる見込み。賃金は、第2四半期に比較的大きく上昇したのに対し、第3四半期は予想通り伸びが鈍化した。部門別では、特に商業、鉱工業、すなわち、以前からの十分な生産性の蓄積のある部門で賃金が上昇した。

3. 物価

消費者物価の前年同期比での下落は、2014年10月までの平均で-0.1%となり、特にエネルギー及び農産品価格の下落が影響した。予想される輸入価格の上昇はエネルギーを除く工業製品の段階的な価格上昇に現れ、それが2015年第1四半期に緩やかな物価上昇として反映される見込み。国内の物価上昇圧力は引き続き弱く、サービス価格の上昇をわずかに加速させるに留まると予想される。また、エネルギー価格の下落を受け、予測の対象期間を通して、エネルギー価格が物価上昇を抑制することが予測される。

4. 貿易

世界貿易、特にスロバキアの主要貿易相手国の動きは外需の伸びにも影響を及ぼす。スロバキアの輸出は2015年には2014年と同程度の3.5%増となり、更に2016年には5%増にまで達すると予想される。2014年の輸入が一時的に示した比較的高い伸びは内需の拡大を反映している。今後は、輸出の拡大に伴った輸入増加が予想される。輸入依存度は現在の水準に留まる見込み。

◆スロバキア中央銀行月報（12月）

1. GDP

スロバキア経済は第3四半期に0.6%の成長を遂げた。経済成長は主に投資需要に支えられ、民間及び公共消費も部分的に寄与した。逆に輸出は再び減少した。10月の売り上げは、前期比で0.3%増加した。国内経済が売り上げの伸びを牽引した一方で、輸出産業部門の売り上げは伸び悩んだ。特に石油化学部門及び冶金部門が鉱工業の売り上げを押し上げた。前月比で0.6%増の好調な動きを見せた10月の鉱工業生産は、前期比で0.5%増と若干加速し、特に金属生産が伸びに貢献した。

2. 雇用率及び賃金

3ヶ月ベースでの雇用率上昇の鈍化傾向は10月も続いた。雇用率の鈍化は前年同期比の動きにも現れており、9月の2.1%上昇に対して、10月は1.8%であった。第1～3四半期登録ベースでの平均失業率は12.56%となり、前年同期比で1.28%低下した。特定部門における10月の平均賃金は前期比で0.5%、前月比では0.5%減、前年同期比では2%増となった。10月の平均名目賃金は810.4ユーロであった。

3. 物価

11月の前年同期比での消費者物価指数は、10月と同様に0.0%と変化はなく、前月比では0.2%下落した。11月の前年同期比での物価の停滞には、エネルギー及び食料品価格の下落が影響した。また、11月は原油価格の下落傾向を反映した燃料価格が前月比で大幅に下落した。

4. 貿易

10月の輸出は前期比で0.3%減と輸出悪化の予測を裏付ける結果となった。原因は自動車及び関連品の輸出減少にあるが、電機産業における伸びの鈍化や金属産業における輸出の停滞も影響を及ぼした。輸入は輸出ほど大幅に落ち込むことはなく、前期比では0.6%増となった。自動車、電機及びエネルギー関連の輸入は抑制されたが、チェーンストアの輸入が全体の伸びに寄与した。10月の季節調整前の貿易収支は、名目で5億1940万ユーロの黒字となり、前年同期比で9680万ユーロ増加した。

(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

